

# とうかつ

## 第44号

# 普及だより

<http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-toukatsu>

令和6年12月発行

発行：千葉県東葛飾農業事務所改良普及課

：東葛飾農林業振興普及協議会

住所：柏市柏255-1

電話：04-7162-6151

FAX：04-7162-6154



圃場での花粉採取講習

さらに、一部の地域では花粉採取時の労力補完としてボランティアによる支援が実施されました。農業事務所ではボランティア参加者に対する花粉採取方法の講習を行い、この取組を支援しました。

このほかにも、受粉時の花粉使用量の節約方法や、ミツバチの利用に関する情報提供など、花粉の自家採取以外の着果対策についても講習会等で説明し、それぞれの経営に合わせた対策の実施を提案しました。

これらの取組と生産者の努力の結果、令和6年の東葛飾地域の着果はおおむね平年並みとなりました。

農業事務所では、今後も関係者と連携して、産地の振興に取り組んでいきます。

ナシの受粉には異なる品種の花粉が必要であり、管内では多くの生産者が中国産花粉を利用していました。しかし、国内への侵入が警戒されている重要病害の「火傷病」が令和5年8月に中国で発生したことから中国産花粉の輸入が停止され、使用

の自粛が強く呼びかけられました。このような中、東葛飾農業事務所では、関係機関と連携し、中国産花粉に頼らず、安定した着果の確保を目指した支援に取り組みました。



生産者同士の活発な情報交換

輸入花粉に頼らない

ナシの安定着果を支援！

**農業経営体育成セミナー生と  
指導農業者の意見交換会を開催**

農業事務所では、新規就農した概ね45歳までの方を対象として、知識・技術の習得や仲間づくりを目的とした農業経営体育成セミナーを開催しています。7月2日に開催したセミナーでは、東葛飾地区指導農業者会の協力の下、経営視察と意見交換会を行いました。

経営視察では、2名の指導農業者を会員宅を訪問し、ほ場管理や品種選定、作業動線、雇用管理等について、ほ場の様子を確認しながら説明を受けました。その後、別会場で行った意見交換会では、セミナー生から指導農業者に栽培技術や販売先、農地の取得等、多岐にわたる項目で質問や相談があり、地域や世代を超えたコミュニケーションが図られました。参加したセミナー生からは、「自分が出荷をコントロールするという言葉が響いた」、「指導農業者との意見交換により課題が整理できた」、「こだわりを参考にしたい」等の感想が寄せられました。

農業事務所では、5月下旬の開講式に向けて新規受講者を募集しています。興味のある方は、改良普及課まで問合せください。



**意見交換会**



**経営視察**

**経営参画に向けた仲間との研鑽  
とうかつ女性農業者  
ネットワークの活動**

「とうかつ女性農業者ネットワーク」は、管内で野菜や果樹、水稲、畜産、加工等に携わる女性農業者が参加する団体です。当団体では、農業経営の参画や技術の向上を目指し、仲間と連携して地域農業を盛り上げていくため、学習会や視察研修会、会員同士の交流会等を開催しています。また、自分たちが持っている知識、技術を若手に繋ぎ、次世代の女性農業者の育成にも貢献しています。

本年度は、6月の研修会で、新たな顧客の獲得と今後の温暖化対策に向けた情報共有を目的に、会員からの取組発表と情報交換を実施しました。参加者は、夢を諦めずできることから少しずつ行動に移していく姿勢に勇気づけられました。

また、直売における販売力向上のため、6月には、柏の葉キヤンパス駅周辺の広場でマルシェを開催しました。また、会員からの提案で、11月には印旛地

区の女性団体との交流を目的とした初めての合同マルシェを開催しました。その中で、他の参加者の商品や販売方法を見ることで、今後の販売方法を考える良い機会となりました。今後も農業事務所は、女性農業者の経営参画や社会参画を促進するため、当団体の活動を支援していきます。

**○会員募集のお知らせ**  
とうかつ女性農業者ネットワークでは、会の活動に参加してくれる女性農業者を募集しています。御興味のある方は改良普及課まで問合せください。



**研修会の様子**

**水稻の除草剤の使い方を見直して効果的な除草をしましょう！**

千葉県の稲作は、他県に比べ、早期栽培であることから雑草の発生がばらつき、防除が困難になることが特徴の一つです。

雑草防除の中で除草剤の利用は最も効果的な方法ですが、同じ除草剤でも使い方によっては効果や薬害の出方が異なっています。そこで除草剤使用時の注意点をまとめました。

**1 田面を均平にする**

田面の凹凸により、水深に差ができてしまうことで除草剤の効果のムラやイネの成長を阻害する薬害が生じてしまいます。入水前に水田内の高いところから低いところへ土を寄せることや、入水後の代かきを丁寧に行うことで田面をできるだけ平らにするよう心がけましょう。

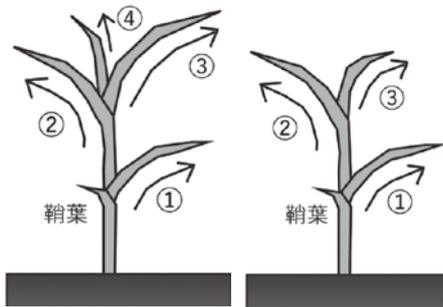
**2 均一に散布する**

除草剤のまきむらは効果の低減や薬害の原因になります。特に水田に投げ込んで使用するジャンボ剤や、水口から除草剤を

流し込む水口施用は便利な反面、藻や浮き草などの浮遊物が多い水田では拡散が不十分になりムラができやすくなります。これらの除草剤を使用する前には藻や浮き草を除去しましょう。

**3 適切な水管理を行う**

水管理が雑草の発生量に及ぼす影響は大きく、浅水や落水状態では雑草が非常に発生しやすくなります。反対に、深水管理を行うと一般に雑草の発生は少なくなります。また水管理は除草剤の効果を大きく左右します。除草剤散布時の水深は通常3～5cm（ジャンボ剤は5～6cm）とし、処理後最低7日は落水や水のかけ流しは行わないように



ノビエの葉齢の数え方

しましょう。また漏水が無いようにあらかじめしっかり止水を行いましょう。水尻だけでなく、畦畔が崩れていないか、穴が開いていないかにも注意してください。

**4 雑草の種類に注意する**

現在普及している初中期一発剤は除草効果が高く、その分イネに薬害を発生させやすい剤もあります。オモダカやクログワイ等の難防除雑草の除草効果の高さを謳っている強力な除草剤は、その除草剤を使用する必要性がある場合にのみ選択しましょう。

**5 雑草の葉齢に注意する**

除草剤は「移植後〇日〇収穫〇日前」のように使用時期が決められています。しかしこの範囲内でも雑草の葉齢によって効果が異なるため、水田内の雑草の葉齢を確認することで確実な効果を得ることができます。除草剤の処理適期は主にノビエの葉齢が基準になっています。そのためノビエの葉齢に注意して除草剤を選択しましょう。

**イネカメムシによる不稔被害を防止しましょう！**

近年、出穂期頃に水田に飛来し、イネを吸汁することで不稔を引き起こすイネカメムシが問題視されています。本種は水田内で繁殖し、成虫、幼虫ともにイネを吸汁するため、発生初期の出穂期に防除を行うことが重要です。今年度の作付けでも、出穂期のカメムシ防除を行わず、極端に収量が減少した水田が確認されています。イネカメムシの防除には、エチプロロール・ジノテフラン剤などの出穂期散布が効果的です。粒剤を使用する場合は、散布後すぐに効果が現れないため、出穂の一週間前には散布しましょう。



イネカメムシの成虫 (体長 12～13mm)

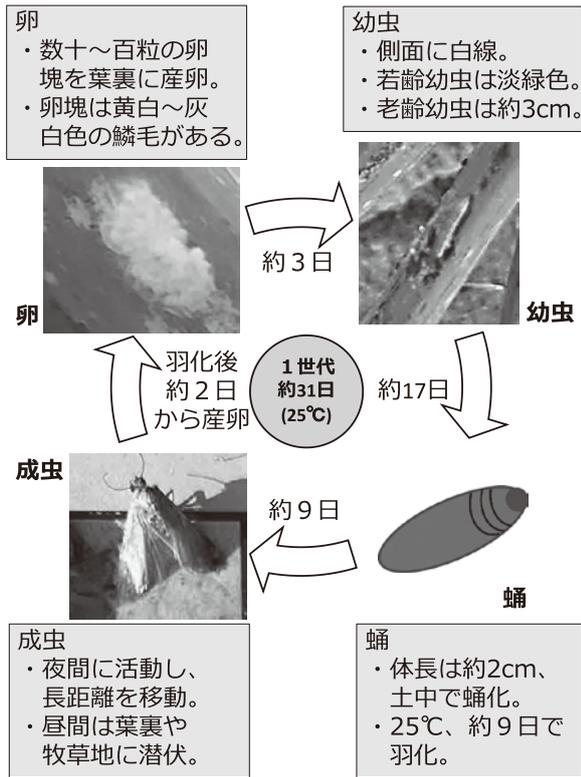


図1 シロイチモジヨトウの生活環

最近多発する野菜の害虫

シロイチモジヨトウの生態と防除

近年、東葛飾地域のねぎ、アブラナ科野菜等においてシロイチモジヨトウの被害が多発しています。本種は、広食性の害虫であり、多発すると収量・品質低下を引き起こすので、防除のポイントを押さえ、被害拡大を防止しましょう。

**1 シロイチモジヨトウの生態**

4月に発生、8月中下旬頃に急増し、10月中旬頃にピークを迎え、12月まで発生します。

また、年間の世代数は4～6世代とされています。近年、早春から発生しており、令和6年は松戸市内に設置したフェロモントラップで、昨年よりも1か月早く誘殺数の増加がみられました(図2)。

**2 防除のポイント**

(1) 薬剤防除

近年、薬剤抵抗性の発達も指摘されており、薬剤抵抗性の発達を防ぐためにも、RACコード分類の異なる薬剤でのローテーション防除が重要です。

(2) 発生前の適期予防

老齢幼虫は若齢幼虫と比較し、

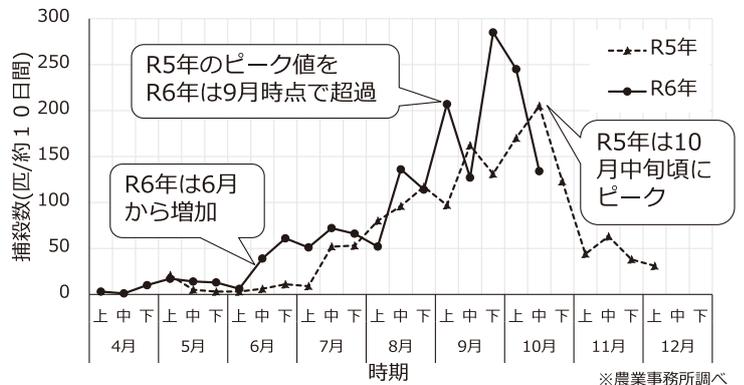


図2 シロイチモジヨトウ誘因捕殺数 (松戸市下矢切)

薬剤が効きにくいのです。そのため、発生初期の若齢幼虫のうち早期の薬剤散布を開始しましょう。また、結球する葉菜類では、結球始期前後の薬剤防除を徹底し、結球内への侵入を防ぎましょう。

(3) 侵入・産卵防止

施設栽培では、開口部に防虫ネットを展張して成虫の侵入を防ぎましょう。また、ほ場で卵塊やふ化直後の幼虫集団を見つけた場合は早急に除去しましょう。

早期防除でハイマダラノメイガの被害を軽減しましょう!

今年、東葛飾地域のアブラナ科野菜等(特に東葛飾地域でも生産が盛んなカブや小松菜等のアブラナ科野菜)においてハイマダラノメイガ(別名ダイコンシンクイムシ)の被害が多発しました。

夏期に高温少雨で、残暑が厳しい年には発生が多くなる傾向があります。

本種は、成長点を食害します。加害がひどいと芯止まり状態になるため、著しい生育抑制や減収等の深刻な被害をもたらします。育苗時や定植時の食害は致命的な被害を招くため、予防的対策が重要です。

防虫ネット等被覆資材の活用や、ほ場周辺の雑草防除やアブラナ科野菜の残さの早急な処理など、薬剤散布のみに頼らず、物理的防除や耕種防除を組み合わせた総合的な対策を心がけましょう。



ハイマダラノメイガの幼虫

# 『梨』の害虫対策！

令和6年の管内における梨の病害虫発生状況は、黒星病については昨年より少ない傾向でした。一方で、時期ごとに様々な害虫の発生が確認されたので、その要因と次年度以降の対策等について説明します。

## 1 【ハマキムシ類】

### 『開花時期の防除が重要』

今年、開花時期からハマキムシ類の発生が多く見られました。中国における火傷病発生の影響で、輸入花粉が使えず、ミツバチ交配の利用が増えたため、開花時期に殺虫剤を使用しなかったことが要因の一つとして考えられます。さらに今年は、春先の気温が高く虫の動き出しが昨年より早かったことも春先にハマキムシ類の多発につながっていると思われます。

今年ハマキムシの発生が多かった園は、次年度の開花時期にミツバチに影響の少ないジアミド系の殺虫剤の利用を検討してください。一方で、ダイアジノ

ン水和剤34等、有機リン系の薬剤は、自園だけでなく近隣の梨園のミツバチにも影響が出てしまうことがあるので御注意ください。

## 2 【シンクイムシ類】

### 『交信かく乱剤に再注目』

7月以降はシンクイムシ類の発生が多く、収量が3割近く減少した園もありました。原因としては、高温により害虫の発生状況が変化し、効果的な時期に薬剤散布ができなかったことが考えられます。

シンクイムシ類に対しては、様々な農薬が対応していますが、発生が収穫時期に差し掛かってしまうと、使える薬剤が限られてしまい、効果的な防除が難しくなることから、収穫時期までにシンクイムシ類の密度を下げることが重要です。そこで、コンフューザーN等の交信かく乱剤を使用して、シンクイムシの密度を下げることを推奨します。

交信かく乱剤は、人工的に合成した性フェロモンを利用し、成虫の交尾産卵を阻害することで、被害を防ぎます。交信かく

乱剤は、東葛飾管内では、あまり普及していません。即効性がないため、なかなか効果を実感できないことや、一定規模で実施しないと効果が少ないと思われることが使用者が少なくない要因だと考えられます。しかし、近年の実績では、単一ほ場での使用でも一定の効果を発揮することもわかってきました。

来年度からは、有機リン系の農薬であるサイアノックス水和剤が防除暦から外れ、ますます殺虫剤の選択が難しくなります。収穫時期にシンクイムシ類等のチョウ目害虫に困らない体制を作るためにも、交信かく乱剤の使用を検討してください。



シンクイムシによる  
梨果実ていあ部からの食害

## 3 【ハダニ類】

### 『土着天敵を活用』

ハダニ類は、高温・乾燥条件を好み、近年の気象傾向から今後も発生が多くなる見込みです。ハダニ類の発生増加に伴い、ダニ剤の散布回数が増えてしまうと、生産者の経済的・労力的負担の増加や、ハダニ類の薬剤抵抗性の発達が懸念されます。こういった状況を打開するためにも、ハダニ類の天敵（カブリダニ）を意識した栽培を推奨しています。

天敵を意識した栽培とは、ほ場にいるハダニ類を捕食するカブリダニを生かす（殺さない）栽培管理をすることです。株元草生栽培によりカブリダニの住処を作り、6月中旬以降の防除にカブリダニに影響の少ない薬剤を選択するだけで、ハダニ類の抑制が期待できます。これに加えて市販の天敵農薬を導入することでより効果が発揮されますが、もともとほ場にいる土着天敵の利用だけでも、特別な費用をかけずに十分効果が期待できます。新たに天敵を意識した栽培を始めてみたい方は、農業事務所までご相談ください。

令和6年度千葉県指導農業者  
及び農業者の新規認証者の紹介

千葉県では、地域農業をけん引し、地域の後継者の育成・指導を行う農業者を「指導農業者」として、集団活動に積極的に参加し、地域農業のリーダーとして活躍する青年農業者を「農業者」として認証しています。今年度、東葛飾地域で新たに認証された方をご紹介します。



指導農業者  
井戸 知一 氏 (船橋市)

果樹と露地野菜の複合経営で、梨栽培では、非常に高い技術により作業効率の良い樹形づくりを実践しています。また、生産技術等先駆的に取り入れ、他の農業者に紹介することで、地域の収量向上に貢献しています。

指導農業者

知久 久利子 氏 (野田市)



酪農を営み、河川敷の牧草の作付けや、出荷できない野菜を活用した飼料(エコフイード)の導入により、コスト削減に努めています。また、新規就農者の定着支援等、地域の担い手の育成に寄与しています。

農業者

會田 浩平 氏 (船橋市)



露地野菜経営で、ネギの新規導入時に、栽培技術や知識を幅広く習得し、早期に軌道に乗せることに成功しました。また、研修会等に熱心に参加し、地域内外の生産者と積極的にコミュニケーションをとっています。

農業者

坂巻 英宣 氏 (野田市)



露地野菜経営で、栽培管理の徹底により、味や品質にこだわりながら有利販売しています。また、自己の経営的視点や考え方を積極的に情報提供し、地域の若手生産者の中心となっています。

農業者

瀬能 淳矢 氏 (野田市)



施設・露地野菜経営で、いちごでは、品種特性に合わせた技術を習得し、品質向上に努めています。また、野田市産の食材を使用した商品開発や、地域のイベントでの消費者交流により、地域を盛り上げています。

文化の日 千葉県功労者表彰  
受賞者の紹介

11月3日に、我孫子市の大炊三枝子氏が「文化の日 千葉県功労者表彰」を受けました。

大炊氏は平成20年に我孫子市内の女性農業者による農産物加工グループ「かあちゃんのかまど」を設立し代表に就任。後に「あびこ農産物直売所あびこん」の運営組織「株式会社あびこベジ」の代表取締役に就任。直売所の発展に尽力しました。

また、我孫子市農業委員・男女共同参画審議委員等の審議委員、JAちば東葛理事を歴任し地域農業の振興に寄与しました。大炊氏の活動は地域の社会参画モデルとして、女性農業者の活躍を後押ししています。



大炊三枝子氏 (我孫子市)